

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

1 実践テーマ	【I・III・IV・V】								
2 実施対象者	福島県立いわき支援学校くぼた校 対象学年：全生徒 生徒数：30名								
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ○ 保健体育) ② 行事名 ○ 講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()								
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピックや障がい者スポーツへの理解を図る。 (2) 障がいのある者（くぼた校生徒）と障がいのない者（勿来高等学校生徒）が、より互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合う態度や豊かな人間性の育成を目指す。								
5 取組内容	(1) くぼた校・勿来高等学校の意見交換会議の実施 ア 日時 平成30年7月23日（月） イ 内容 ・ 推進テーマの決定： 「パラリンピックとふくしまの障がい者スポーツ（パラリンピックと障害者スポーツ）」 ・ 事業計画の検討及び実施日についての日程調整 (2) 講義「オリンピック・パラリンピック競技の理解」の実施 ア 日時 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">くぼた校</th> <th colspan="2">勿来高等学校</th> </tr> <tr> <th>1年1組</th> <th>1年2組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45</td> <td>平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45</td> <td>平成30年 11月19日（月） 13:25~15:05</td> </tr> </tbody> </table> イ 対象 いわき支援学校くぼた校：全学年 「保健体育」（30名） 勿来高等学校：1学年1・2組 「保健体育」（55名）	くぼた校	勿来高等学校		1年1組	1年2組	平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45	平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45	平成30年 11月19日（月） 13:25~15:05
くぼた校	勿来高等学校								
	1年1組	1年2組							
平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45	平成30年 11月19日（月） 10:55~11:45	平成30年 11月19日（月） 13:25~15:05							

ウ 内容 「オリンピック、パラリンピックの概要及び障がい者スポーツ」について

エ 方法 くぼた校教員による講義

※ 勿来高等学校生徒については、くぼた校教員による出前授業形式での実施



(3) 外部講師による講演会の実施

ア 日時 平成30年11月20日(火) 13:25~15:00

イ 対象 いわき支援学校くぼた校 全生徒(30名)

勿来高等学校 全生徒(148名)

ウ 内容 「パラリンピック競技の理解ーボッチャ競技を通してー」

エ 講師 一般社団法人日本ボッチャ協会

強化指導部長 村上 光輝 氏

(リオデジャネイロパラリンピック・ボッチャ競技日本代表チームのコーチ)



(4) 講義・実技指導の実施「ボッチャ競技への理解」

ア 日時

	くぼた校	勿来高等学校	
		1年1組	1年2組
第1回	平成30年 11月19日(月) 10:55~11:45	平成30年 11月19日(月) 10:55~11:45	平成30年 11月19日(月) 13:25~15:05
第2回	平成30年 11月27日(火) 8:55~9:45	平成30年 11月26日(月) 10:55~11:45	平成30年 11月27日(火) 8:55~9:45

イ 対象 いわき支援学校くぼた校：全学年 「保健体育」

勿来高等学校：1学年1・2組 「保健体育」

	<p>ウ 内容 第1回「ボッチャについて① ルールの理解と実技」 第2回「ボッチャについて② 試合形式による実技」</p> <p>エ 方法 くぼた校教員による講義・実技指導</p> <p>※ 勿来高等学校生徒については、くぼた校教員による出前授業形式での実施</p> <p>※ 第2回「ボッチャについて② 試合形式による実技」については、くぼた校と勿来高等学校1年2組の交流及び共同学習とし、両校生徒による混合チームを編成して実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 各実践から</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パラリンピック競技の理解」をテーマに、くぼた校が併設されている勿来高等学校と、「保健体育」における交流及び共同学習を柱に両校合同で実施した。それにより、両校の生徒たちが場を共有したり、かかわり合ったりしながら、互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合う態度を育むことができた。 また、勿来高等学校では、第1学年「保健体育」で障がい者スポーツやボッチャについて、年間指導計画に位置づけて指導されるようになった。 パラリンピックボッチャ競技代表コーチ講師に迎えて、くぼた校・勿来高等学校の合同で講演会を、ボッチャ競技の実技指導を交えながら行ったことで、両校の生徒共に、パラリンピックや障がい者スポーツについての理解が深まった。また、勿来高等学校の生徒については、障がい者への理解を深める機会になった。 ボッチャ競技の講義・実技の授業、とくに試合形式による実技では、両校生徒による混合チームを編成して実施したことで、くぼた校生徒が活躍すると勿来高等学校生徒が称賛や拍手をするなど、チームの一員として互いに認め合いながら活動することができた。 <p>(2) アンケートの結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の実施前と実施後に、アンケートを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 実施日 1回目：平成30年11月2日（金） 2回目：平成30年12月3日（金） ※ 内 容 オリンピック・パラリンピックについて 実施前のアンケートでは、くぼた校生徒の8割は「ボッチャを知っている」と回答したのに対して、勿来高等学校の生徒の多くは、「オリンピックは知っているが、パラリンピックは知らない」「ボッチャ競技を知らない」という回答だったが、実施後のアンケート結果では「オリンピック、パラリンピックの理解はすすみましたか」の問いに対して、くぼた校生徒は63%、勿来高等学校生徒は86%が「理解できた。」と答えた。このことが

	<p>ら、実施後の方がパラリンピックや障がい者スポーツへの関心が大幅に高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自由記述から、「実際に講演会を聞いたり、ボッチャ競技に取り組んだりすることによって、オリンピックやパラリンピック競技について理解することができました。」「興味がわき、携帯で調べたりテレビでやっているのを見たりした。」という意見が多くあり、両校の生徒にとってパラリンピックや障がい者スポーツを身近なものに感じることができた野ではないかと考える。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の実施にあたり、スポーツ・障がい者スポーツをとおした共生社会の形成、そして実現という本校の目的があったことから、外部講師による講演会では、講演内容について、講師との打合せを綿密に行った。 実際の講演では、車椅子での移動の困難さや、障がいをもつ人への接し方や支援の仕方等、具体例を挙げながら説明をいただいたことは理解を深める良い機会となった。
8 主な課題	<ul style="list-style-type: none"> くぼた校側（障がいのある者）の視点では、今回の事業をとおして、障がい者の理解啓発にはつながっていると感じる。しかし、互いにかかわり合い深めて、地域の中で共に学び共に生きていくことを踏まえると、生徒一人一人の人間関係の形成やコミュニケーション力の向上を図っていくことが重要となるため、本事業での学習活動と日頃の教育活動との連携について検討する必要がある。 勿来高等学校側（障がいのない者）の視点では、障がい者スポーツについての知識は増えたが、障がい者と共に生きる豊かな人間性の育成という点で、今後も時間をかけながら継続的に指導を進める必要があると感じる。 今回、両校の体育科の教師が中心となり授業を行ったが、普段から共生社会の形成及び実現に向けて、両校教師が研修する機会を設けて充実を図ることで、両校の生徒それぞれに対してより深まりある指導が実践できると考える。 本事業を実施することで、オリンピック・パラリンピックが身近に感じるようになったが、今後は実際に参加・参画することに向けて、その手段や方法を具体的に示して実現できるように指導していくも必要だと感じた。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も勿来高等学校との交流及び共同学習を柱に、継続して実施する。 スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の形成・構築を目的に、両校で意見交換をしながら実践していく。 障がいのある者（くぼた校生徒）と障がいのない者（勿来高等学校生徒）が、より互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合う態度や豊かな人間性の育成が図れるように、指導を充実させる。